

アセットマネジメントの取り組み

「これまでの成果も引き続きある親しみやすい施設にしたい」

市では、アセットマネジメントに取り組んでいきます。今回は、これまでの成果と今後の取り組みについてお知らせします。

アセットマネジメントとは

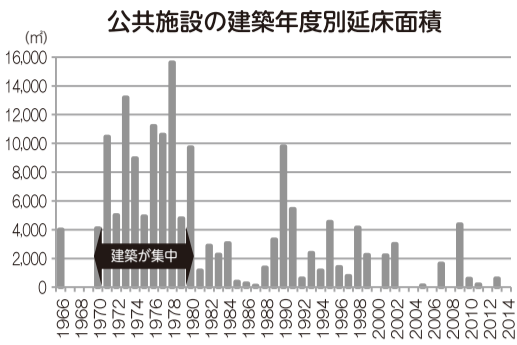
市が所有するまたは使用する公共施設資産(アセット)を最も費用対効果が高く効率的で適切な管理(マネジメント)を推進することです。

これまでの成果

公共施設マネジメント白書

市内の公共施設の広さは、合計すると、約16万3000平方メートル(東京ドーム約3.5個分)ということが分かりました。

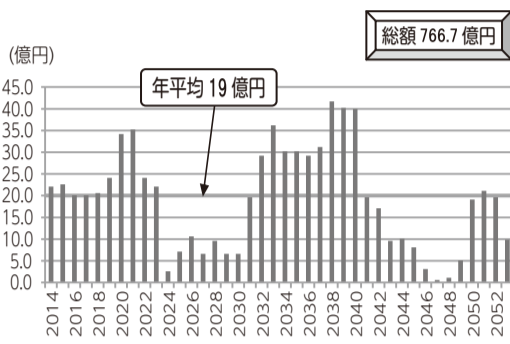
また、施設の多くが昭和40年代から50年代に建てられているため、全体的に古くなっていることも分かりました。



▼維持費を予測
建物を維持するための費用は、古くなるほど増加します。今後40年間、今の施設(建物)

アセットマネジメント推進課 ☎470

の数や広さを変えずに維持し続けるためには、約76億7千万円が必要です。年平均に換算すると、毎年約19億円必要となること分かりました(ただし、道路、上下水道などの維持費用は含まれていません)。



公共施設マネジメント基本方針

- 施設の現状を踏まえ、公共施設の維持管理に関する基本方針を定めました。
- ・施設の量を見直します
 - ・サービスの質を見直します
 - ・施設を長く使います
 - ・余った施設を生かします

公共施設マネジメント基本計画

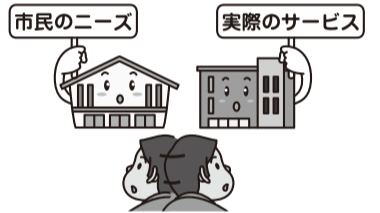
基本方針に基づき、今後30年間にわたる、公共施設の維持管理に関する基本的な方向性を示しました。
次の項目について検証したうえ、維持に必要な取り組みを進めることを決めました。

今後の取り組み

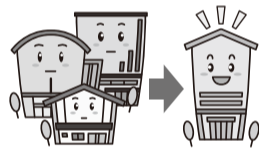
- ・どのようなサービスがのぞまれているか。
- ・サービスを提供するために建物が必要か。
- ・どのような種類のどのくらいの広さの部屋が必要か。
- ・市でつくるか、民間でもつくるかが可能か。

公共施設を最も費用対効果が高く効率的で適切な管理を推進していくためには、「ムリ・ムラ・ムダ」のない、計画的かつ効率的な施設の維持管理が必要です。
その考えに基づいて取り組みを進めるためには、次のようなチェックが必要です。
▼あまり使われていない施設(部屋)はないか。
施設や部屋の使い方をチェ

ツクし、無駄な部屋を少なくします。



▼使われ方が似ている施設(部屋)はないか。
似ている施設をまとめることでできないかチェックします。



▼民間の力を借りてサービスの充実が可能か。
できるだけお金がかからず、質の良いサービスが提供できないかチェックします。

アセットマネジメントシンポジウムの開催

これまでの公共施設に関する取組結果と今後の取組についての紹介、アセットマネジメントに関する基調講演、公共施設に関するパネルディスカッションを行います。

日 6月10日(土) 午後2時~4時40分

場 八潮メセナホール

出演者 = 廣田直行さん(日本大学教授)、松本暢子さん(大妻女子大学教授)、藤井さやかさん(筑波大学准教授)

定 500人(当日先着順)

集中豪雨に注意しましょう

梅雨時は、前線の活動による大雨が多くなります。市では、河川の水位や降雨の状況により、市民の生命を脅かす危険性が高まった場合に避難勧告・指示などを発令します。身の危険を感じた場合は、自発的に命を守る行動をとりましょう。

☎危機管理防災課 ☎305

風水害から命を守るために

勧告・指示など

屋内での待避など

避難指示(緊急)

避難勧告

避難準備・高齢者等避難開始

水位の上昇

堤防

平常時の水位

市民に求める行動

◎屋外での移動が危険な場合や浸水などによる建物倒壊のおそれがないと判断される場合には、自宅や近隣の建物の高い場所へ緊急に一時避難します。

人的被害の発生するおそれが極めて高い状況
◎避難勧告などの発令後で避難中の方は、避難を完了します。
◎避難していない方は、直ちに避難を開始します。その余裕がない方は、屋内にとどまり上階に待避するなどの行動をとります。

人的被害の発生する可能性が明らかに高まった状況
◎避難行動をとれる方は、避難所への避難を開始します。

人的被害の発生する可能性が高まった状況
◎気象情報などに注意を払い、避難の必要について考え、避難を必要と判断する場合は、その準備をします。
◎避難に時間がかかる高齢者・障がいのある方などは、避難行動を開始します。

市民への伝達方法

河川の水位や降雨の状況を考慮し、必要に応じた方法で情報を発信します。

- サイレン
- 防災行政無線※
- 緊急速報メール
- やしお840メール配信サービス
- テレビ、ラジオ、インターネット
- 広報車
- 自主防災組織
- 消防車両

※防災行政無線が聞き取りにくいときは、防災行政無線テレホンサービス(☎0120-840-225)で確認できます。